市町村名	竹富町

令和４年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	大富高齢者ゆくい処施設整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2－(5)－ア 高齢者が生き生きと暮らせる地域づくり
担当部課名	福祉支援課	事業実施（予定）年度	R4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-（2）
事業内容	西表東部地区において、大富保育所移転後の施設を高齢者ゆくい処施設として活用できる増改築工事を行い、介護サービスの充実、高齢者同士の交流の場、憩いの場、将来的には小規模多機能型居宅介護事業所が展開できる施設整備を行う。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（R6年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R4年度（繰越）	R　年度	R　年度	R　年度
予算の状況	(a) 当初予算額	82,558				
	(b) 予算現額	82,558				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	54,500		0	
	A. 計 (b+d)	82,558	54,500	0	0	0
B. 執行済額		28,058	50,547			
うち交付金充当額		22,446	40,437			
次年度繰越額		54,500	0			0
執行率（%）(B/A)		34.0%	92.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業内容を遂行するため適切な予算であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R　年度	R　年度	R　年度
増改築工事（建築・設備・厨房・監理）実施	目　標	増改築工事実施			
	実　績	増改築工事実施			
	目　標				
	実　績				
達成状況説明	全工程(建築工事、設備工事、監理委託業務、備品整備)完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R4成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R　年度	R　年度	目標値（　年度）
増改築工事（建築・設備・厨房・監理）完了	目　標	（　）	(増築工事着工)	（　）	（　）	（　）
	実　績		(増改築工事完了)	（　）	（　）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・R4年3月に工事完了予定であったが、入札不調等により施工スケジュールが延長されR5年10月末に完了する事が出来た。 ・介護サービスの充実が図れたか（80%以上）利用者等にアンケートを実施予定だったが、R6年度から指定管理による供用が開始されたため、未実施。R6年度に実施予定。					

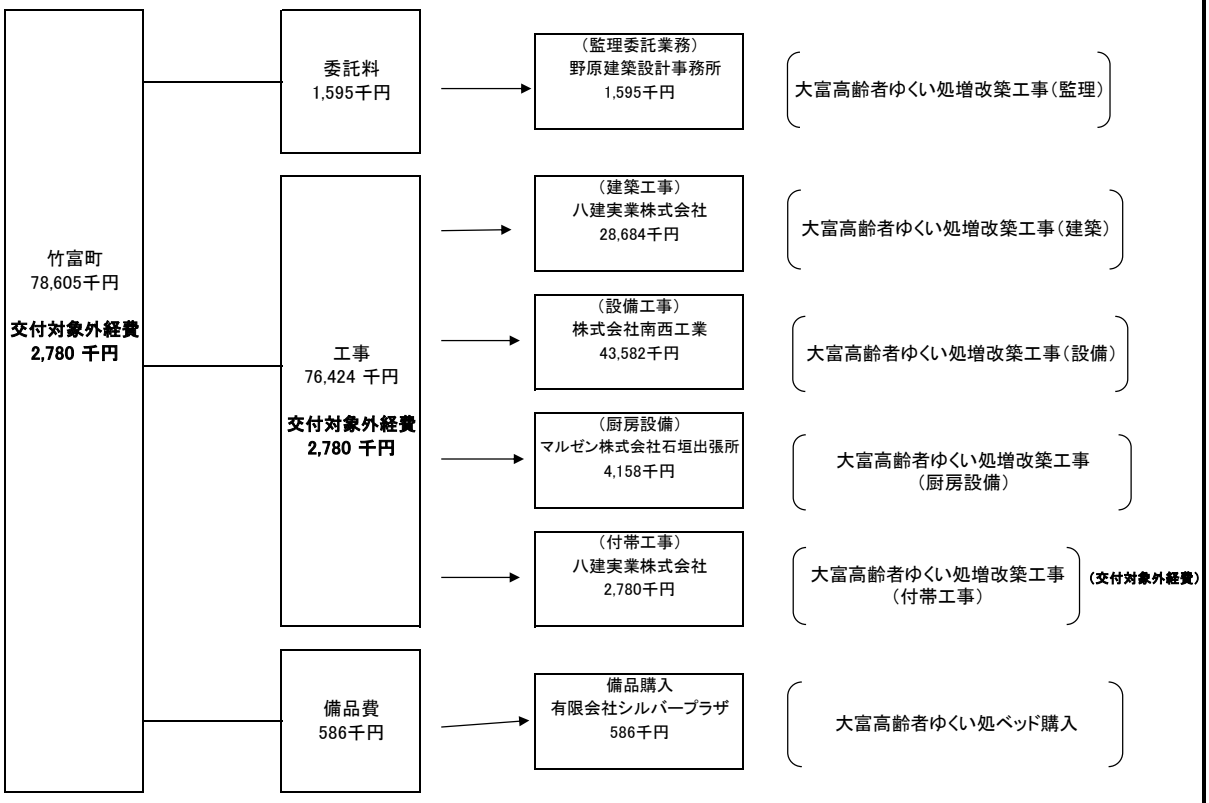
取組の検証	**推進上の留意点**（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
	R4年3月末完了予定としていたが、入札不調、設計変更により工期を延長し繰越事業となった。施設整備後の設置条例の改正、施設指定管理の手続きによりR6.2から供用開始となった。	施設の指定管理により供用開始が図られたが、介護サービスの充実を図るため、事業所との調整が必要。デイサービスの利用日数の増加及びお泊りサービスができる環境を整える。

今後の取り組み方針
R6年度に利用者等を対象にアンケートを実施し検証を行う。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
81,385	78,605	62,883	15,722	2,780



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており妥当であると考える。 ○予算規模については、適正な規模と考える。 ○費目、使途については額の確定時において検査、確認しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町

令和４年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	コーキ原のガジュマル群落周辺整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－（4）－ア
担当部課名	社会文化課 まちづくり課	事業実施（予定）年度	R4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（3）
事業内容	竹富町指定天然記念物コーキ原ガジュマル群落と町指定史跡ウティスク遺跡の文化財活用の一環として、新しい小浜島観光の周遊ポイントを作るほか、町民への地域遺産学習の場を提供するために木道・駐車場を整備する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R4年度	R4年度（繰越）	R　年度	R　年度	R　年度
予算の状況 (a) 当初予算額	75,000				
予算の状況 (b) 予算現額	75,000				
予算の状況 (c) 増減額（b－a）	0	0	0	0	0
予算の状況 (d) 繰越額	0	46,400			
予算の状況 A. 計（b+d）	75,000	46,400	0	0	0
B. 執行済額	28,600	46,393			
うち交付金充当額	22,880	37,114			
次年度繰越額	46,400				
執行率（%）（B/A）	38.1%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	資材の製作・調達に時間を有したため、R4年度内の完了が困難となり工期の延長に伴い46,400,000円の繰越を行った。工事完了後、R5年4月に供用を開始することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R年度	R年度	R年度
コーキ原のガジュマル群落周辺整備の実施	目　標	整備完了			
	実　績	整備完了			
	目　標				
	実　績				
達成状況説明	R4年度において、遊歩道・駐車場整備工事・案内看板設置工事を行った。R5年4月に完了し、供用を開始した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R4成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R年度	R年度	目標値（　年度）
コーキ原ガジュマル群落周辺整備の完了	目　標	（　　）	（　整備完了　）		（　　）	（　　）
	実　績		整備完了			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	R5年4月の供用開始から1年を迎えるにあたり、1月～2月にかけて、利用者（小浜公民館・観光客）へのアンケート調査を実施し、①ガジュマル群落活用の場としての満足度、および②文化財を活用した新たな観光の周遊ポイントとしての満足度を測った。 その結果、満足している・やや満足しているを併せて各々①83%　②89%となり、成果目標値を上回った。					

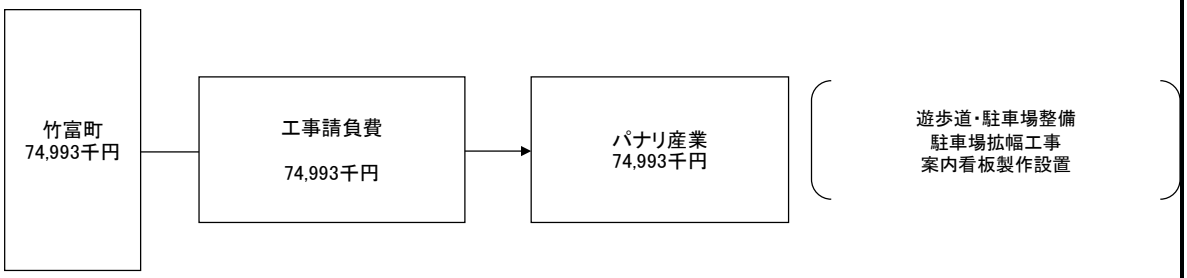
取組の検証	**推進上の留意点**（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
	【遊歩道の整備】 町指定天然記念物ガジュマル群落は、樹々に覆われた森の中にあり、気軽に観る事が難しかったが、遊歩道・駐車場が整備されたことで、気軽に且つ安全に群落を見る事ができるようになった。	整備後のアンケート調査で満足度を測ったが、アンケートの意見に入口の看板が無く、場所がわかりにくいという意見が多くあった。現在はコーキ原ガジュマル群落遊歩道へ行くまでの誘導が無いため、看板設置が必要である。R5年度の成果目標である満足度80%は達成したが、看板を設置することにより、集客や来訪者の満足度を上げる事に繋がると考えられる。

今後の取り組み方針

関係課と連携を取りながら、誘導看板の設置を行う。
雄大なガジュマル群落とトラバーチン採石の歴史を学ぶ場として、児童生徒にも訪れてもらえるよう周知を図るほか、観光スポットとしても広く活用を行って行く。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
74,993	74,993	59,994	14,999	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事は地方自治法施行令第167条の2第1項第8号の規定に基づく随意契約により実施しているが、随契理由等を踏まえた上で選定し契約を行っているので、随意契約は妥当であったと考えている。 ○予算規模については、積算内での執行であるため、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については業務完了報告を受け検査・確認を実施しており、目的に即し、必要なものであったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町

令和４年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	船浮イダの道散策路整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(1)－ウ 人と環境にやさしいまちづくりの推進
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	令和1～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9－(2)

事業内容

イダの浜に訪れる観光客等の利便性確保を図るため、船浮集落からイダの浜へのアクセス通路を散策路として整備する。

効果発現年度

■当年度　□後年度(　令和　年度)

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他(　　)

予算額・執行額【単位:千円】(「交付金」＋「市町村負担」ベース)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度(繰越)
予算の状況 (a)当初予算額	7,820	89,400	0	28,006	
予算の状況 (b)予算現額	7,645	31,240	0	28,006	
予算の状況 (c)増減額(b-a)	▲ 175	▲ 58,160	0	0	
予算の状況 (d)繰越額	0	0	11,385	0	11,506
予算の状況 A. 計(b+d)	7,645	31,240	11,385	28,006	11,506
B. 執行済額	7,645	19,856	0	16,500	11,506
うち交付金充当額	6,116	15,884	0	13,200	9,204
次年度繰越額	0	11,385	0	11,506	0
執行率 (%) (B/A)	100.0%	63.6%	0.0%	58.9%	100.0%

予算の状況の説明

国有林の土地所有者(国)との協議において、一部貸付契約が必要となり、資料作成及び契約手続きに時間を要し、工事着手が遅れたため工事費にかかる13,376千円を繰越した。総額28,741,400円(うち交付金22,404千円)を適切に執行した。

活動目標(指標)及び達成状況

R4活動目標(指標)		達成状況 R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R年度
イダの浜散策路整備にかかる工事の実施	目　標	実施設計の実施	工事の実施	－	工事の実施	
	実　績	実施設計の実施	工事の実施	－	工事の完了	
	目　標					
	実　績					

達成状況説明

令和4年度に工事を実施し、一部繰越したが令和5年4月27日に工事完了した。

成果目標(指標)及び進捗状況

R4成果目標(指標)		基準値(　年度)	R2年度	R3年度	R4年度	R年度	目標値(　年度)
イダの浜散策路整備にかかる工事の完了	目　標	(実施設計の完了)	(工事の完了)	(　－　)	(工事の完了)	(　　)	(　　)
	実　績	(実施設計の完了)	工事未実施	(　－　)	(工事の完了)	(　　)	
	目　標	(　　)	(　　)	(　－　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績						

進捗状況説明

令和5年4月末で整備が完了し、翌日から供用が開始されている。
・施設利用者満足度等アンケートを令和5年7月から11月まで実施し、満足率約90%の達成率となった。(R5成果目標)

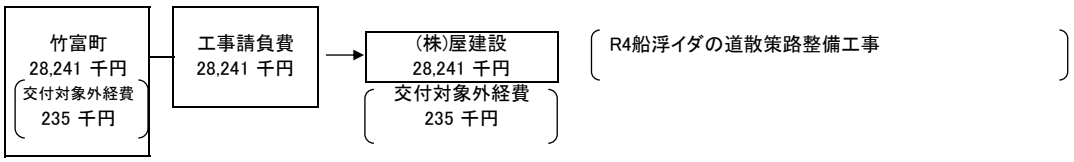
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・令和5年に繰り越したが、その後は順調に整備することができた。施設利用者満足度について、当該施設の在り方をアンケートで検証した結果、来訪者の利用が多い状況が分かる。また、地元住民の生活道としての利用もされていることが分かる。施設については、満足（やや満足含）が90.8%となっており事業実施の目的・成果目標を達成していると考える。	施設利用については、満足（やや満足含）との声を多くいただいているが、少数意見として外灯の設置要望もあった。設置も含め自然に配慮したかたちで夜間の歩行空間の安全確保に努めていきたい。 ・地域のイベントなど情報発信を行い、更なる来訪者の増加を図る。

今後の取り組み方針

・アンケートの少数意見で外灯設置について意見はあるが、自然に配慮し外灯設置ではなく懐中電灯などで対応できないか検討していきたい。また、来訪者や地域住民の利便性を保持するため、定期的な町道維持管理に務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
28,241	28,006	22,404	5,602	235



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については不用額は無く、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	